Ⅲ．学校現場の問題

学校経営充実の一方策について

千葉市立さつきが丘東小学校　阿　部　慎　二

近年，学校自体，特に教師に対する社会一般の信頼感は決して高いとはいえない現状である。学校教育が多くの市民から期待され，信頼を高めるためには教育水準の維持向上を図ることであろう。そのために，学校経営の全般にわたって改善，改革の努力が求められているのが現状ではなかろうか。

ここで，臨時教育審議会の答申を待つまでもなく，現場発想での地道な改善を進めてみたい。

学校経営の充実とは，狭義には学校教育目標の具現化と考えられる。教育目標は，学校が年間を通して行う教育活動のなかで，意図的，計画的に選びだされたものが目標として示されている。従って学校における各領域の教育活動に具体化され，それらの教育活動を通して，児童が人間性豊かで望ましい人格形成が行われることによって教育目標が達成されるといえよう。

最初に本校の学校経営の概要を説明し，ご理解を頂き，筆者が新米校長としての４月から12月までの９カ月間の実践を後に述べたい。

本校の学校経営について

学校経営の概要

学校の機能は，そのすべてが一人ひとりの児童の望ましい成長発達に向けて発揮されねばならない。いいかえれば，学校は児童のために存在するといえる。このことの確認の上に立脚して，学校の諸機能，諸条件の整備充実を図ると共に，地域社会との緊密な連携のもとに最適な教育経営の展開を意図している。同時に教育フロンテアにおける創造の可能性を大胆に発揚することにつとめたい。

１．学校の教育目標

――人間性豊かな子どもの成育をはかる ――

２．具体目標

(1)めざす児童像

＜教師のめあて＞　　＜児童のめあて＞

- よく考え，創造する子 ――――――――――よく考え新しいものを生み出そうとする子
- 学習の方法を身につけ，進んで勉強する子 ――自分から勉強する子
- 連帯感が強く，助け合う子 ――――――――友だちと仲よく助け合う子
- 責任感が強く，実践力のある子 ――――――仕事を最後までやりぬく子
- 心身が強く，たくましい子 ――――――――じょうぶでがんばる子

(2) めざす教師像

- 常に子どもの立場に立って考える教師
- 一人ひとりの子どもを生かす教師
- 柔軟な思考力を持ち，創造的な教師
- 授業を大切にし，真剣に取り組む教師
- 学級内の人間関係を育てる教師
- 研修や研究に心がける教師
- 規則や規律をきちんと守れる教師
- 同僚の努力や美挙を称賛し，協力する教師

3．経営の方針

- 知育・徳育・体育の調和のとれた教育活動を行うように努める。
- 一人ひとりの個性を把握し，長所と努力を認め，生きがいをもたせる教育活動を行うように努める。
- 教育の場にふさわしい清潔で美しい，しかも自主性が育つ教育環境を作るように努める。
- 教職員の共通理解と指導意識の統一を図り，基本的生活習慣の定着に努める。
- 教職員として，人間として，絶えず向上するように研修に努める。このため校内外の研修に意欲的に参加すると共に，自主的に個人研修に努力するように努める。
- 地域や家庭と連携を密にし，協調，奉仕のもとに地域社会との提携に努める。

4．経営の重点

教育課程の充実

知育・徳育・体育の調和のある児童の成育をめざした教育課程の実践に努めたい。

- 学習指導の充実

  児童の実態に即応した指導方法の改善に努めると共に，計画－実践－評価のサイクルに絶えず留意して，児童に力がつく指導方法に積極的に努めたい。

- 生徒指導・道徳教育の充実

  児童の行動や側面の理解に努め，指導と相談の体制の充実に努めたい。

日常の具体的な諸活動を通し集団行動の規律化の充実に努めたい。

道徳的実践力と道徳的実践の指導の充実に努めたい。

- 職員研修の充実

教師の力量と人がらが教育力の向上に影響する。従って，教師は自らの力を高めるため自己研修に励み，主体的に「自己を磨く」ように努めたい。

校内研修の充実をはかり，指導力の向上に努めたい。

- 学校環境の整備・充実

特別教室・余裕教室の整備・充実に努めたい。

学年・教科等，掲示コーナーの創造的経営に努めたい。

一鉢運動を積極的に推進すると共に学校園，学年園の計画的な利用と美化に努めたい。

- 家庭，地域社会との連携の充実

家庭との連携を密にし，相互の立場を尊重し協力体制を整え，保護者会その他関係団体との連携に努めたい。

- 校務の効率化

経営の合理的，能率的な運営組織の確立と分掌業務内容の明確化と運営の効率化を図りたい。

提出物・報告文書等の適切な処理に努めたい。

5．研究主題（全体）

一人ひとりを大切にし，主体的に学習にとりくむ子どもを育てるためには，どのような指導をしたらよいか。

――国語科・算数科を通して――

研究主題設定の理由

本校では，ここ数年「自主的，主体的学習の育成」を主なテーマとして，研究にとりくんできた。その成果があって，少しずつではあるが，進んで学習しようという態度がみられるものの，その都度課題を与えないと進んでやろうとしなかったり，発言はするが，それが児童相互の話し合いまでには深まっているかいないかなど，まだまだ十分とは言えない。

そこで，主体的学習にとりくむ子どもを育てるためには，①学習意欲を引き出す工夫をすること，②問題意識をもつ感性をみがくこと，③自らの力で進めていける学習の仕方を身につけさせること，④それぞれの学年の基礎的・基本的事項を完全にマスターさせることが課題ではないかと思われる。

その中で，今年は特に④の基礎的・基本的事項のみなおしをはかり，教材のねらいを明らかにし，教材の重点化・構造化をはかるなかで，よくわかる，楽しい学習の有り方を通して，自ら進んで学習に取りくむ子どもの育成にあたりたいと考えている。この研究主題にせまるために，次

のような仮説を設定した。

全体研究仮説

仮説 1

基礎的・基本的事項を明らかにし，教材の重点化，構造化をはかれば，指導のねらいが明確になり，学習意欲も増すであろう。

仮説 2

問題解決学習の仕方や発言の仕方，少グループの話し合いの仕方などが身につけば，学習は活気づき，学習内容は深まるであろう。

仮説 3

児童の実態に合った資料・教具の作成，活用をはかれば，子どもたちの問題意識や思考も深まり，基礎的事項もしっかり身につくであろう。

仮説 4

児童の実態をよく把握し，一人ひとりを大切にした評価の工夫をすれば，意欲化もはかれ，基礎的・基本的事項の定着がはかれるであろう。

※研究組織・運営，研究推進委員構成，部会構成，運営については省略をする。

※国語科・算数科の研究主題及び仮説についても省略とする。

本校で 4 月より取り組んだものの中で主に取りあげられる四項目について以下のべる。

1．職員研修（教員の資質の向上）について

① 組織的な研修の必要は勿論であるが，教師自身の自己啓発的な研修

② 教師の個別的な研究主題の設定

③ 校外研修への積極的な働きかけ

④ 校内研修の充実

本校では，今年度は特に④番に力を入れ，研究主題にせまる内容と教員の資質の向上に役立つものの二本立てとし，外部よりの講師をむかえて35回を予定した。

すでに実施した研修内容を記す。

※研究主題にせまる内容として

国語科・算数科共　各 3 回，計　6 回

※教員の資質の向上に役立つものとして，国立教育研究所から研究とは　　8 回

生徒指導とは（小・中学校の一貫教育について）	1回
教育講演（個性重視の原則）	1回
教育相談（子ども見方について）	3回
理　科（校内の植物採集）	1回
図工科（作品の鑑賞）	1回
保健体育科（表現運動・陸上等）	3回
国語科（書写）	1回
特別活動（安全教育・救急法）	2回
県教委・市教委の学校訪問	2回
	計29回

4月より12月までで29回が実施できた。

1月より2月までの間，7回をすでに予定済で，この中には元臨時教育審議委員なども含まれている。

この他，本校はマーチングバンドで外部講師が11回来校して指導を受けた。又，本校の教師だけによる校内研修が13回実施できた。

この校内研修実施にあたり，運営上とかく研修時間設定などでよく困難にぶつかることがあるようにいわれているが，千葉県・千葉市にあっては，月曜日及び木曜日は外部の行事は一斉もたないことになっているので問題はない。（出張者が一人もいないこと，全員参加の研修ができること）

研修時間設定にかかることで，次の条件が必要となる。

- 授業時間確保のため授業は絶対につぶさないこと。
- 全職員が参加できること
- 共通理解の場であることを確認すること。
- 勤務時間内でおわらせること。

以上の四点を本校は守ってきたと同時に，成果として次のことがあらわれてきた。

- 年休を取る教員が二学期では一学期の五分の一以下に減ったこと。
- 職員室の話題が講師の話に傾いてきたこと。
- 講師のアンコールが教員の中から次々に出ていること，の3点があげられる。

2．学校の施設設備の充実について

本校は昭和47年度の設立で，本年で16年目になる。当時は児童数が増える時期であったため，わが，千葉市では，47年度に小学校が8校，中学校が3校，48年には小学校が11校，中学校が3校が新設され，わずか2カ年で25校ができた。急増対策の建築とはいえ，今になると水漏れ，ピータイ

ルのはがれ，窓ワクの不十分なところ，開閉がおもうようにいかない箇所が目立つようになっている現状である。

そこで本年度は，市教委に積極的に働きかけ，グランドの全面改修をはじめ，体育館のステージ，床の改修，校門，通用門の門扉の設置　ジャリ道の補修，理科室，トイレの水漏れの改修，ピータイルの改修，電話機の全面取替等，教職員の事務の効率化，働きやすい職場に変容しつつある現状である。

3．地域・家庭との連携について

本校の学区は新しく開発されて出来た集合団地であって，地元の人間は殆どいない。いわば他より来た人たちの集合体であって，連帯観，郷土愛みたいなものは全然ない。一般にいわれている「千葉都民」である。最終的には，わが子さえ良ければいいといった気もちだけである。

故に，

- 知的面のみを追い求める親の姿とかさねることができない学校現場の苦しみは理解してもらえない。
- 保護者会の広報活動紙の内容等は学校に要求のみ多く，自分たちは一体何をしているのかといいたくなる。親の主張そのものに問題があり，親を教育する必要がある。
- 児童は大人を小さくしたようなもので，口ばかり達者で行動がともなわない。
- 公立の学校は塾ではないことを確認する必要がある。

以上のようなことを，ふまえながら保護者役員会，各委員会へ積極的に参加し，学校の現状を理解してもらうために説明をし協力をもとめた。また，広報紙等も事前に共通理解の場をはかることにした。積極的に学校側からも学校だより，学年だより，クラスによって学級通信等により相互理解を深める手だてをとっている。

4．校長としてのリーダーシップについて

- 校長の出来ることは教師に力をつけてあげることである。
- そのために校長は何ができるか。（研修の場を積極的に設定すること）
- 学校教育目標の具現化のために，人間関係の一層の大切さ（信頼関係の確立，発展性のある指導）に心くばりができているか，等である。

ま　と　め

筆者は経営の方針及び重点を総合的にふまえて，学校自体の見直し，即ち学校改善の方向に力点をおきながらこの９ヵ月間実践してきた。校長としては未熟ではあるが，「教師が生きがいをもつことのできる職場づくり」と「児童が生き生きと活動できる楽しい学校」を目指して今後とも努力していく所存である。